

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人クレッシュ
施設名	南大高保育園
報告者	長屋 博子（園長）
住所・連絡先	愛知県名古屋市長区南大高四丁目235番地
	☎ 052-626-1225
	E-mail hiro.kns@me.ccnw.ne.jp

○タイトル（保育計画）

「わくわく」「楽しい」保育をめざして

○主な助成備品

ゲームボックス 6 個一組

1. 保育計画策定の目的

南大高保育園は平成24年4月に開園したばかりです。定員は1歳児6名、2歳児12名、3歳児12名、計30名です。少人数で家庭的な雰囲気の中での保育を目指しての開園でした。

背景として、4月当初は園児全員が新入園児であり、従ってほぼ全員が初めて保護者から離れての集団保育でした。子ども達が安心して過ごすことができる環境、保護者の方々が安心して預けることができる環境を作るため、職員は手探りながら全力で保育をしていました。園生活に慣れてくると外遊びが大好きな子ども達は、晴れた日は園庭で追いかけてっこや砂遊び、園の周辺を散歩して日々楽しく過ごしていました。

そんな中で、乳児の保育環境の要素の中でも大切な「おもちゃ」。天気の悪い日は、各年齢が楽しく遊ぶことができる購入したおもちゃや布やフェルトで手作りしたりして保育を進めてきました。

そんな中でいよいよ梅雨の走りの頃、雨の日になると各クラスでおもちゃの取り合いが始まり必要以上に大きな声が聞こえたり、保育室の中でピョンピョンジャンプしたり走り回ったりする姿が多くみられるようになりました。子ども達は外へ遊びに行きたいのだな、身体を動かしたがるのだなと強く感じるようになりました。ある日の職員会で、雨の日室内でも身体を動かして遊ぶ大きなおもちゃが欲しいという声が上がりました。どうせならば0～2歳児全員が楽しめる物が良いと思い、「ゲームボックス」はどうだろうとの提案がありました。「ゲームボックス」ならば各年齢それぞれ違った遊び方が出来るのではないかと。そして保育士にたいしても、固定観念にとらわれず、いろいろな展開を考え新たな保育環境を提供して欲しいということを目的としゲームボックスの購入を決めました。

2. 具体的な実施内容

【0歳児】

はいはいをしたり、つかまり立ちをしたりが盛んなのでトンネルにしたり中に入ったりして好奇心をくすぐります。



【1歳児】

一人歩きが上手になってきて、ゲームボックスとトンネルを組み合わせてもぐりながら進んだり、よじ登ったり、複数のゲームボックスを連ねて保育士の手を借りながら上に立ったり上を歩いて進んだり探究心いっぱいです。



【2歳児】

立つ、歩く、登る、跳ぶなどが次第にしっかりと出来るようになりチャレンジの気持ちを持ち始めます。その気持ちを大切にしながら、手を貸し見守りつつ、危険も経験していきます。また、複数段積み重ね頂上に立った時の子ども達の表情は格別でした。



【組み合わせて】

トンネル以外にもほかの物と組み合わせて遊びます



サーキット



かくれんぼ

3. その成果と評価

きれいではっきりとした色遣いのゲームボックスは子ども達の目を引き、さらに前述したように、子ども達の好奇心、探究心、チャレンジ心を充分にくすぐり、そして満たすことができたと思います。また、保育士も遊びを考え工夫しました。

さらに危険の無いように楽しむための保育士の言葉かけで子ども達は順番を守る事を知ったり、友達を応援するなどの場面も見ることができました。また、「ちょっと怖いけれどやってみよう」「出来た」という達成感を味わい、「怖かった」「危なかった」という経験をすることもありました。

悪天候が続いてもプレイルームで全身を使って遊ぶことができ、室内でもメリハリのある保育が出来ました。

4. 今後の課題と展望

小さな園であるため園舎も小さく、物の収納スペースが十分ではない現状です。大きなゲームボックスは使わない時の置き場に迷うことも多くありました。

今後は使わない時に片付けこむのではなく、使いながら置いておく方法を考えたいと思います。一段での使用時の高さが1～2歳児にはちょうど良いことから、ままごとの調理台として使っていたのですが、ボックスの中に入り込み、遊びが壊されてしまったりトラブルになることがあり、入ることができないような配慮が必要です。さらに、ついつい子ども達が指を入れてしまうジョイントの穴に指を入れられないようにするなど安全面の配慮をしながら、園児も保育士もわくわくする保育を目指していきたいと思っています。

以上